

平成22年10月14日

文化庁 第8回国際文化フォーラムについて

- World Cultural Forum 2010 -

文化庁では、本年11月、12月に東京、奈良、福岡において、合計3回の文化芸術に関する国際的なフォーラムを下記のとおり開催いたしますのでお知らせします。(同時発表：関西プレスクラブ)

1. 趣 旨

第8回国際文化フォーラムでは、「文化の多様性と東アジア」をテーマに、国内外の著名な文化人・芸術家が世界の文化に関する様々な分野における最新の状況や課題などについて、世界的視野で討論・対話を行います。また、本フォーラムを通じて世界に向けて文化のメッセージを発信し、日本文化を広く伝えることを目的としています。

2. 事業概要

本年は「文化の多様性と東アジア」を大テーマとし、「東アジアにおける文化の多様性」、「映画と東アジア」、「文化観光の可能性」といった3つのサブテーマのセッションを各地で開催します。東京、関西、九州において、世界の文化人が議論を交わします。

各セッションの詳細は別紙のとおりです。

3. 「関西元気文化圏」、「九州・沖縄から文化力プロジェクト」での位置付け

国際文化フォーラムは、文化庁が提唱する「日本の社会を文化で元気にしよう」という取組の一環として推進している「関西元気文化圏」及び「九州・沖縄から文化力プロジェクト」の中心事業として開催するものです。

4. 開催時期・会場

時期：平成22年11月18日(木)～12月4日(土)のうち3日間

会場：全国3会場(東京、奈良、福岡)(詳細は別紙のとおり)

【添付資料】

実施概要・開催日程・出演者プロフィール

リーフレット

<お問い合わせ>

文化庁長官官房国際課

課長 大路 正 浩 (内線2845)

国際文化交流室長 北山 浩 士 (内線3153)

代 表：03 - 5253 - 4111

直通電話：03 - 6734 - 3110

平成22年11、12月全国3会場で開催決定！！

「国際文化フォーラム」では、ユネスコの提唱する人類共通の遺産「文化の多様性(Cultural Diversity)」をテーマに、国内外の著名な文化人・芸術家が、世界の文化の最新情報や文化をとりまく課題に関する知見を、講演・座談会等を通じて提供すると同時に、日本の伝統文化から世界を席卷するポップカルチャーまで日本文化の魅力についても広く伝えていきます。

8回目となる今年は「文化の多様性と東アジア」を大テーマとし、セッションごとにサブテーマを設け、グローバルな視点で文化の意義と文化の与える影響力について議論を展開し、日本から世界に向けての文化のメッセージを発信します。

つきましては、当事業についてのご理解を賜るとともに、貴媒体および貴団体での告知・紹介等をお願いいたしてお知らせ申し上げます。

記

1. 名称 第8回国際文化フォーラム
2. テーマ 文化の多様性と東アジア
3. 構成 東京セッション「東アジアにおける文化の多様性」(開催地：東京都台東区)
基調講演 「東南アジア諸国連合形成と文化交流の役割(仮)」
基調講演 「東アジア現代文化圏の形成」
奈良セッション「映画と東アジア」(開催地：奈良県奈良市)
福岡セッション「文化観光の可能性」(開催地：福岡県太宰府市)
いずれのセッションも、聴講の参加が可能です。
(参加費無料。申込方法は添付リーフレットを参照。)
4. 日程 平成22年11月18日(木)～12月4日(土)のうち3日間
(別紙「開催日程」のとおり)
5. 主催 文化庁、日本経済新聞社、NHK、関西元気文化圏推進協議会、九州・沖縄文化力推進会議
上記組織は事業全体の主催者。別途各会場にて共催団体あり。

実施内容は、状況により変更の可能性がありますことをご了承下さい。最新の情報については、文化庁国際文化フォーラムホームページ (<http://www.bunka.go.jp/culturalforum/>) でご確認下さい。



写真は昨年度、第7回国際文化フォーラムより

<取材のお申込み・お問合わせ>
第8回国際文化フォーラム事務局
担当：伊澤、坂上、花岡
電話：03-5790-0888
FAX：03-5790-0308
E-Mail：wcf2010@nhk-p.co.jp

【東京セッション】「東アジアにおける文化の多様性」

日 時：平成22年11月27日(土) 13:30～17:30
 会 場：東京国立博物館 平成館 大講堂 (東京都台東区上野公園 13-9)
 主 催：文化庁、日本経済新聞社、NHK、東京国立博物館
 出 演：

【基調講演】

「東南アジア諸国連合形成と文化交流の役割(仮)」スリン・ピッスワン(ASEAN(東南アジア諸国連合)事務総長)
 「東アジア現代文化圏の形成」青木 保(青山学院大学大学院総合文化政策学研究科特任教授・元文化庁長官)

【座談会】

座 長：青木 保(青山学院大学大学院総合文化政策学研究科特任教授・元文化庁長官)
 パ 初 対：近藤誠一(文化庁長官)
 王 曉秋(北京大学歴史学科教授/中国)
 ユ・インチョン(韓国文化体育観光部長官/韓国)
 スリン・ピッスワン(ASEAN(東南アジア諸国連合)事務総長)
 ヌール・ヤルマン(ハーバード大学人類学科名誉教授、シニアフェロー/トルコ)
 ハンス・ゲオルグ・ゼフナー(ドイツ社会学会会長/ドイツ)

【奈良セッション】「映画と東アジア」

日 時：平成22年12月4日(日) 13:30～17:00
 会 場：奈良県新公会堂(奈良県奈良市春日野町 101)
 主 催：文化庁、奈良県、日本経済新聞社、NHK、関西元気文化圏推進協議会
 座 長：佐藤忠男(映画評論家、日本映画学校校長)
 パ 初 対：河瀬直美(映画作家)
 ジャ・ジャンクー(映画監督/中国)
 イム・グォンテク(映画監督/韓国)
 アピチャップン・ウィーラセータクン(映画監督/タイ)
 フィリップ・チア(映画評論家/シンガポール)
 タンビール・モカンメル(映画監督/バングラディシュ)

【福岡セッション】「文化観光の可能性」

日 時：平成22年11月18日(木) 13:30～17:00
 会 場：九州国立博物館 ミュージアムホール(福岡県太宰府市石坂 4-7-2)
 主 催：文化庁、福岡県、日本経済新聞社、NHK、九州・沖縄文化力推進会議、九州国立博物館
 座 長：三輪嘉六(九州国立博物館長)
 パ 初 対：田中浩二(前九州観光推進機構会長、九州旅客鉄道株式会社相談役)
 高田知仁(タイ サイアム大学教養学部 ホテル・観光学科講師)
 王 軍(中国文物交流中心主任/中国)
 ユ・ピョンハ(公州博物館長/韓国)
 ジェームス・トーマス・ユーラック
 (スミアン協会ア・ギャラリー、アサー・M・サックラー・ギャラリー-日本美術シニアキュレーター)

1. 東京セッション【平成22年11月27日】

基調講演 『東南アジア諸国連合形成と文化交流の役割(仮)』



スリン・ピッスワン(ASEAN(東南アジア諸国連合)事務総長)

米国ハーバード大学で政治学、中東研究で修士号及び博士号を取得。タイの英字紙 the Nation、the Bangkok Post のコラムニストを1975年から1992年まで務める。

1978年から83年までタマサート大学で政治学の教鞭をとる。

1992年から1995年まで外務副大臣、1997年から2001年まで外務大臣の職を務めた。外相職を退いた後は、国連などの国際機関の主要ポストを歴任。2008年、タイ政府及び他のASEAN加盟国の承認を得てASEAN事務総長に就任(任期は2008年 - 2012年)。

基調講演 『東アジア現代文化圏の形成』



青木 保 (あおき たもつ)

青山学院大学大学院総合文化政策学研究科特任教授・元文化庁長官
人間科学博士。文化人類学、比較文化論を専門分野とし、大阪大学教授、東京大学教授、政策研究大学院大学教授、早稲田大学アジア研究機構教授、2007年4月より2009年7月まで文化庁長官を経て、2009年8月より青山学院大学大学院総合文化政策学研究科特任教授。この間、米ハーバード大学客員研究員、仏社会科学高等研究院客員教授、独コンスタンツ大学客員教授なども務める。タイ、スリランカなどのアジア諸国、欧米各国等の文化人類学や文化政策の調査研究に従事。サントリー学芸賞受賞、吉野作造賞、紫綬褒章を受賞。『儀礼の象徴性』『日本文化論の変容』『逆光のオリエンタリズム』『異文化理解』など著書は多数。最新刊に『作家は移動する』(新書館)がある。

座談会 『東アジアにおける文化の多様性』

座長 青木 保 青山学院大学大学院総合文化政策学研究科特任教授・元文化庁長官

パネリスト: 近藤誠一(こんどう せいいち) 文化庁長官

元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使、前駐デンマーク特命全権大使。

王 暁秋(おう きょうしゅう) 北京大学歴史学科教授 / 中国

主要研究分野は歴史学及び文化学。主な著書に、「近代中日文化交流史」など。

ユ・インチョン 韓国文化体育観光部長官 / 韓国

1971年「オセロ」で俳優として演劇デビュー。元ソウル文化財団代表理事。

スリン・ピッスワン ASEAN(東南アジア諸国連合)事務総長

上記参照。

ヌール・ヤルマン ハーバード大学人類学科名誉教授、シニアフェロー / トルコ

主要研究分野は社会人類学及び中東地域学。アメリカ芸術科学アカデミー会員。

ハンス・ゲオルグ・ゼフナー ドイツ社会学会会長 / ドイツ

エッセン、ハーゲン大学教授、UCバークレー、ボストン大学客員教授等を歴任。研究テーマは、社会学理論、文化・メディアの社会学等。

2. 奈良セッション [平成 22 年 12 月 4 日]

座談会 『映画と東アジア』



座長 佐藤 忠男 (さとう ただお) 映画評論家、日本映画学校校長

昭和 5 年生まれ、新潟県出身。70 年初頭からアジア、アフリカなどの映画を研究する傍ら、福岡アジアフォーカス映画祭ディレクター、日本映画学校校長を務める。

陳凱歌、アッバース・キアロスタミなどのアジアの監督や『ファザーレス』『HOME』など無名監督の作品を公私にわたりバックアップする活動も続けている。

フランス文化勲章、韓国王冠文化勲章、ベトナム政府の友情のメダルを受勲。

主な著書に『日本映画史 全 4 巻』『伊丹万作「演技指導草案」精読』(ともに岩波書店)、『映画俳優』(晶文社)、『黒澤明の世界』『小津安二郎の芸術』(ともに朝日文庫)など多数。

パネリスト：河瀬直美(かわせ なおみ) 映画作家

2007 年『殞の森(もがりのもり)』でカンヌ国際映画祭にて審査員特別大賞グランプリを受賞。2010 年第 1 回なら国際映画祭エグゼクティブディレクター。

ジャ・ジャンクー 映画監督 / 中国

2006 年『長江哀歌』でベネチア国際映画祭にて金獅子賞グランプリを受賞。

イム・グォンテク 映画監督 / 韓国

2002 年『酔画仙』でカンヌ国際映画祭にて監督賞を受賞。2005 年ベルリン国際映画祭では名誉金熊賞を受賞。

アピチャップン・ウィーラセータクン 映画監督 / タイ

2010 年『ブンミおじさん』でカンヌ国際映画祭にてパルム・ドールを受賞。

フィリップ・チア 映画評論家 / シンガポール

元シンガポール国際映画祭ディレクター。ドバイ国際映画祭プログラムコンサルタント。

タンビール・モカンメル 映画監督 / バングラディッシュ

2001 年『根のない樹』でダッカ国際映画祭にて特別賞を受賞。バングラディッシュ映画研究所所長。

3. 福岡セッション【平成22年11月18日】

座談会 『文化観光の可能性』



座長 三輪 嘉六 (みわ かるく) 九州国立博物館長

1938年岐阜県生。奈良国立文化財研究所研究員、文化庁主任文化財調査官、東京国立文化財研究所修復技術部長、文化庁美術工芸課長、同文化財鑑査官、日本大学教授などを経て、2005年から現職。専門は考古学、文化財学。現在、文化財保存修復学会会長、NPO法人文化財保存支援機構理事長、NPO法人文化財夢工房理事長、「読売あをによし賞」運営・選考委員など。主な著書に、「日本の美術 家形はにわ」(至文堂、1995年)、「美術工芸品をまもる修理と保存科学」(『文化財を巡る科学の眼5』国土社、2000年)、編著に「日本馬具大観」(吉川弘文館、1992年)、「文化財学の構想」(勉誠出版、2003年)など多数。

パネリスト：田中浩二 (たなか こうじ) 前九州観光推進機構会長、九州旅客鉄道株式会社相談役

元九州旅客鉄道株式会社社長、会長。官民一体となった九州観光振興を目的に2004年に発足した「九州観光推進機構」の初代会長。

高田知仁 (たかた ともひと) タイ サイアム大学教養学部 ホテル・観光学科講師

主要研究分野は東南アジア美術史、日タイ関係史。現在、タイ・ガイド協会の現役ガイド研修を担当。

王 軍 (おう ぐん) 中国文物交流中心主任 / 中国

元中国国家文物局政策法规司司長。現職では、文化遺産に関する国際協力、交流事業、公開展示を目的とした文化財の輸出入等の業務を推進。

ユ・ビョンハ 公州博物館長 / 韓国

元国立春川博物館館長(2006～2008)。

ジェームス・トーマス・ユーラック

スミソニアン協会フリーア・ギャラリー、アーサー・M・サックラー・ギャラリー-日本美術シニアキュレーター

2010年旭日小綬章受章(アメリカ合衆国における日本美術の紹介・普及に寄与)。現職では、フリーア、サックラー両美術館の日本美術品コレクションのオンライン化プロジェクトを推進中。